

光重合型前装冠用硬質レジン ジーシー プロシモを用いた色調表現

東京都港区・弘進会 宮田歯科
三田技工室
山口康之



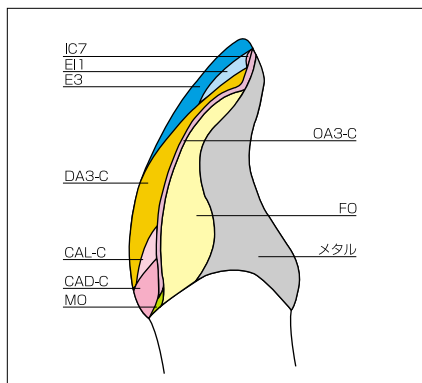
近年、歯科診療における審美に対する要求は高まり、一般診療の中でのハイブリッドセラミックスの修復が臨床的に認知されてきた今、保険診療の中でもある程度の審美性を求める声も多くなってきている。そのような中で発売されたプロシモは、従来のビタシェードでは補えない日本人の自然な歯の色調にこだわって新しい色調コンセプトで開発されたシステムであり、発売以来かなり評価は高いと聞いている。それは、発色の良さやオパール性を抑えた色調はもちろん、操作性

や強度においても優れているからであろう。しかしながら『プロシモシェード』ですべての口腔内が網羅できるかというところでもない。周知の通り口腔内は天然歯ばかりではなく、製作しようとする補綴物の隣在歯には、以前に装着されたポーセレンや硬質レジン前装冠が数多く存在しているため、ワールドスタンダードの『ビタシェード』も逆に欠かせない存在となってくる。

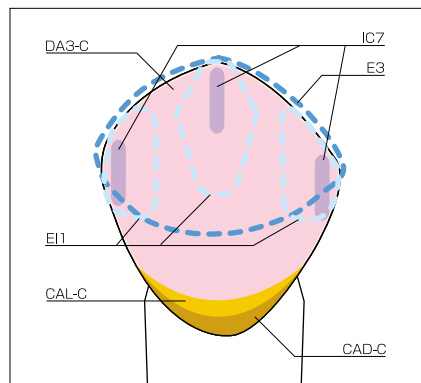
先生方がシェードテイキングする場合『ビタパンシェードガイド』を使用していることが

多く、そこで威力を発揮するのが『ビタシェード』を忠実に再現した『プロシモクラシカルシェード』である。このように『プロシモ』には異なる2種類のシェードが用意されているので、これら2つのシェードを駆使すれば、今までにできなかった色調再現も可能となる。また、ちょっとした工夫をすれば、あらゆる症例に対応できるので、これからの硬質レジンの可能性を感じさせる製品である。

以下、『プロシモ』を使用して製作した臨床例を、築盛ステップを通して紹介したい。



1 築盛断面図。



1 築盛イメージ。



1 術前。



1 左が『ビタパンシェードガイド』のA3、右が自家製『プロシモクラシカルシェードガイド』のA3-C。



1 ワックスアップ完成。ジーシー インレーワックスソフト(レッド)で歯冠外形を回復する。マージン部には、マージンワックスを使用した。



1 窓開け後、ジーシー リテンションピースII (SSS)を付与。超微粒なため埋まりやすいので、アドヒーブ塗布後20~30秒ほど置き、揮発成分を飛ばしてから振りかける。



1
7
キャスト・メタル調整。マージン付近・クリアランスのない部分のビーズはカーバイドバーなどで削除する。メタルバックリングは、前方・側方運動に関係ない部分を可能な限りなくす。



1
8
アルミナブラスト処理後、超音波洗浄し、水分を完全に飛ばしてからメタルプライマーIIを薄く塗布する。膜を張るほど塗ると接着効果が落ちるので注意したほうが良い。



1
9
ファンデーションオパーク(FO)塗布。平筆でリテンションビーズのアンダーカット部に確実に入り込むように塗布する。メタルプライマーII塗布後は、ほこりなどがつかないように直ぐに塗布したほうが良い。



1
10
マージンオパーク(MO)塗布。マージンから1mmぐらいを目安に塗布する。



1
11
ボディオパーク(OA3-C)塗布。塗布面が均一になるように、全体に薄く塗布する。一度に厚く塗りすぎると未重合になりやすいので、2回ぐらいに分けたほうが良い。



1
12
サービカル(CAD-C・CAL-C)築盛。若干の歯根形態をとることを考慮して最先端部にCAD-Cを、隣在歯の歯頸部に合わせてCAL-Cを築盛。



1
13
デンチン(DA3-C)築盛。あまり何度も小出しに盛ると気泡を巻き込む原因になるので、1~1.5mmを目安にある程度一塊で盛る。



1
14
エナメルインテンシブ(EI1)築盛。基本的には2層築盛だが、E3を築盛する前に切端部・隣接部にEI1を築盛するとIC7(ラベンダー)が強調され、隣接部の透明感などには有効である。



1
15
エナメル(E3)築盛。E3を築盛して最終形態に近い状態で築盛を完成させる。



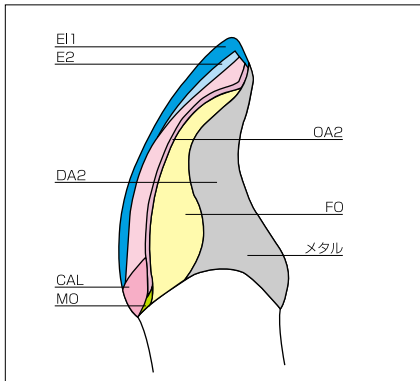
1
16
メタルとの境界線やマージン部のわずかな隙間の見逃しを防止するためにIC0(クリアー)を最後に塗布する。若干程度の豊隆不足などにも有効である。



1
17
形態修正・研磨・完成。カーバイドバーやカーボランダム・ポイントを使用し形態修正を行った後、適法どおり研磨し完成させる。

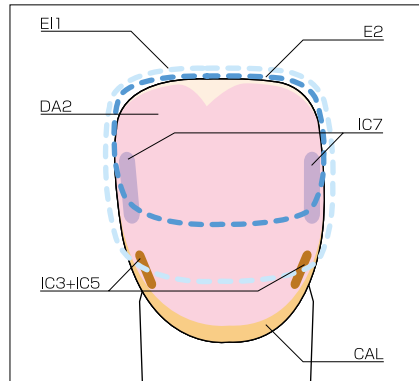


1
18
口腔内装着感。



築盛断面図。

2
・
1



築盛イメージ。

2
・
2



ファンデーションオパーク (FO)・マージンオパーク (MO) 塗布。
FOは、マージン付近を一層残して塗布することで、後のオパークによるマージン部の白い浮き上がりを防止できる。

2
・
3



オパーク (OA2) を塗布。
マージンオパークとの境界線はぼかすように塗布する。

2
・
4



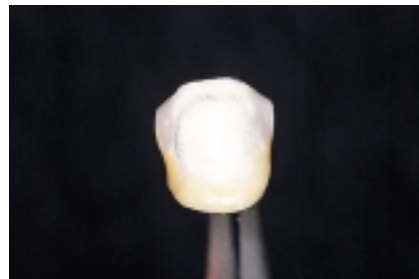
サービカル (CAL) を築盛。
適度なちょう度はマージン部の辺縁封鎖にとっても有効である。

2
・
5



インテンシブカラー (IC7) 塗布。
メタルバックিংがある場合でも、透明感を出すにはとても有効である。ただし重合後は若干鮮やかになるので、塗りすぎに注意する。

2
・
6



歯頸部の隣接面にIC5 (ブラウン) にIC3 (イエロー) を混ぜたものを少量塗布する。この場合は、着色というより奥行きを出すという意味合いが強い。連結冠やブリッジの時にはより有効となる。

2
・
7



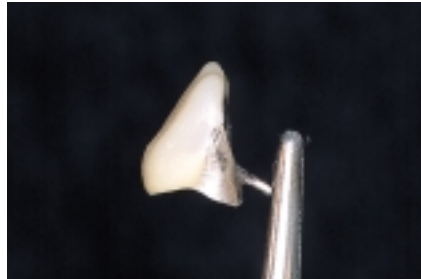
デンチン (DA2) 築盛。
付形しやすい硬さなので指状構造の付与も容易に行える。

2
・
8



2
9

ある程度築盛したら平筆などで表層を滑らかにすることにより、エナメル築盛時の気泡の巻き込みを回避できる。



2
10

プロシモシェードA2はビタパンシェードのA2よりも若干色味が濃くなる感があるので、ややエナメルを多めに築盛することを考慮してデンチンの築盛を行う。



2
11

エナメル(E3)築盛。
エナメルインテンシブ(透明色)の築盛スペースを考慮してエナメルを築盛する。特に透明感を強調したい場合には、この時にインテンシブカラーのIC0にIC12を混ぜたものでキャラクタライズしたり、トランスルーセント(T0)を築盛したりするのも良い。



2
12

エナメルインテンシブ(EI1)築盛。
切端部の自然な透明感を付与するにはエナメルインテンシブを築盛する。
最終重合時にグラディアのエアバリアー材を使用。未重合層をなくし、表面の硬度を確保できる。



2
13

形態修正。
ある程度の硬さがあるので、カーバイド・ポイントだけでなくカーボランダム・ポイントやダイヤモンド・ポイントでも目詰まりすることなく表面性状を付与することができる。



2
14

研磨・完成。
通法どおりの研磨で簡単に艶が出る。グラディアのダイヤモンドポリッシャーを使うとより艶出しが効果的である。



2
15

口腔内装着感。

以上『プロシモ』を使用した臨床例を紹介してきたが、『プロシモ』は保険・一般診療を問わず、前装冠のあらゆる症例に応用できる点がとても気に入っている。また、インテンシブカラーはグラディアのそれとほぼ同じなので、硬質レジンの色調表現性も幅が広がったと言えるだろう。

そして、なんといっても操作時間(特にオ

ペークの重合時間)の短さは特筆すべき点がある。日ごろ時間に追われて仕事をしている技工士にとってはありがたい限りではないだろう。

まだ発売して間もないので、改良して欲しい点はいくつかあるものの、今後が楽しみな材料であることに間違いはない。